

乳児湿疹とアトピー

日常の診察で赤ちゃんの湿疹はよく見かけます。特に顔面や頭部の湿疹が目立ち、母親からは「**乳児湿疹ですか？アトピーですか？**」と聞かれることがあります。

乳児湿疹は、生後間もなくから2ヵ月くらいまでに見られる主に頭部・顔面・頸部の湿疹です。母体由来の性ホルモン（女性ホルモン）や男児自身のテストステロン（男性ホルモン）が皮脂腺からの分泌を促すことができます。

乳児湿疹は、ほとんどの場合生後2か月頃には自然消褪しますが、アトピー性皮膚炎（アトピー）の初期症状はその後にも湿疹を繰り返し、掻痒感（痒み）を伴います。またアトピーは、徐々に顔面から四肢体幹に湿疹が広がってきます。

乳児湿疹の治療は、ベビー用あるいは低刺激性の洗浄料を使用し、指の腹を用いてしっかり洗い落とししてからよくすすぎます。そして**洗い落とし後は保湿**をして皮膚のバリア機能低下を防ぐことが大切です。

一方、アトピー性皮膚炎は、①痒み、②慢性的な経過（2か月以上）、③皮膚の臨床的所見（顔・頭から体幹、四肢関節部に広がってくる）が特徴です。



乳児期のアトピー性皮膚炎は大半が軽いため「アトピーですね」と言うと母親は「えっ、アトピーですか?!」とビックリされます。多分、前医からは乳児湿疹と言われていたと思われます。

最初、頭、顔、首、耳に**痒みの強い湿疹**から発症します。赤ちゃんは痒みを訴えませんが、寝具や母親の胸に顔をこすりついたり、耳や顔を手でこすったり、髪を引っ張ったりします。また体の方にも湿疹がある場合は、後頭部や背中を寝具にこすりつけて体をくねくねしたり、左右の足をこすり合わせたりする動作が見られます。

特にアトピーで特徴的な所見は、耳介部の湿疹や亀裂ですのでよく観察して下さい。

最近のトピックスですが、顔面に湿疹があると母乳や離乳食に含まれる食物の成分が皮膚から吸収されて、その食べ物に対する食物アレルギーが誘発されると言われるようになりました。従って、**早期に適切な治療を開始して湿疹を早く改善してやること**が、将来、アトピーの悪化やダニ・ハウスダストによるアレルギー性鼻炎、乳幼児喘息に移行するのを防ぐこととなります。

また、**湿疹のない新生児期からの保湿がアトピー性皮膚炎の発症を防ぐ**という論文も出てきており、赤ちゃんのスキンケアはますます大事になってきました。

（チャイルドヘルス、2018.3 参照）

（たまなは）